



慶應義塾大学環境情報学部大岩研究室でコラボレイティブ・マネジメント型情報教育に外部評価委員として参加させていただきました。このプロジェクトは4名ほどの学部学生が「人に使ってもらえるソフトウェア」を目標に半年間で要求仕様の策定から顧客への提供までを実体験するもので、諸元には（簡素化されていますが）コスト計算も含まれています。プロジェクトには、企業の若手技術者がプロジェクトマネージャ（以下プロマネ）として参加し、学生と一緒に活動します。プロマネの仕事は、プログラミングそのものをほとんど知らない未熟な（それだけに成長の可能性を大きく秘めた）学生に対し、プロジェクトを成功に導くための効果的なマネジメントを行うことです。プロマネには学生のメンターとして技術指導もしてもらうことになっているのですが、なにしろプロマネ本人にとってもプロマネは初体験であり、プロマネの仕事は何か、どうやればプロマネの仕事がまっとうできるかを自分で勉強しながら立ち向かうので、通常のソフトウェア開発で発生するトラブルはすべて発生し、それ以外にも考えられないような事態が次々起こり、それらをプロマネを中心としたチームの団結力で解決していくことになります。その結果、学生はソフトウェア開発の実践的知識とスキルを深めることができ、若手技術者はプロジェクト・マネジメントの実体験ができ、プロマネ派遣企業は一般顧客の仕事の中での育成というリスクを負わずに、プロマネ育成ができるという「三方一両の得」という授業です。

各社のプロマネが悪戦苦闘する中で、日本IBMのプロマネだけではどのプロマネもスマートかつオーソドックスに仕事を進めます。見積もりはFP法やEVM法を駆使しているのではな

いかと思えるほど実績との乖離は少なく、MS-ProjectやRUP等の有効な開発ツールも（自分のものとするまで十分に勉強した後に）活用しています。その結果プロジェクトはまず失敗することがなく、参加した学生はほぼしのプログラマになった気分です。これに比べ他社のプロマネも自分の馴れ親しんだ開発管理ツールを使い努力をしますが、（残念なことにはその意味するところを理解していないので努力が空回りし）工程は遅延しバグはなくなり、でき上がったものが使い物にならないこともあります。プロマネと学生が対立し、発表会の場でもお互いを非難する光景も出現します。日本IBMのチームで成功した学生が他社プロマネのチームに参加してもしばしば失敗します。日本IBMのチームで成功したメンバは得るところが少ないのですが、失敗したチームのプロマネや学生は何らかの原因が自分にあることに気付きます。課外の時間まで使って努力した結果、失敗することもあるのですが、それにもかかわらずこの授業を再度とる学生が多くいるということは、自分でデザインして物を作り出すというプロセスに大きな魅力を感じるのでしょう。

振り返ってみると、成功することが必ずしも目標ではなく人間としての成長を期待している、ということになり、そのような授業が存在することは今後の日本も捨てたものではないと思いました。

（本教育の報告は以下に掲載されています）

<http://crew-lectures.sfc.keio.ac.jp/gp/>

（湖東俊彦／事務局長）

■ 各種問合せ先 ■

（社）情報処理学会（本部） ※支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担 当	E-mail	Tel (ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会, 会費, 変更連絡, 退会, 在会証明, 会員証, 会費等口座振替, 海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容, 広告掲載, 転載許可, 出版, 著作権
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌 (ジャーナル) の編集・査読
調査研究／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録, 研究発表会, シンポジウム, 研究グループ, 論文誌 (トランザクション)
■ 事業部門			
事 業／国 際	jigyo@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会, FIT, 連続セミナー, プログラミング・シンポジウム, 国際会議, IFIP 委員会
■ 管理部門			
総 務	somu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会, 支部, 役員選挙, 名誉会員
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納, 送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画, 電子化委員会, 電子図書館, IPSJ メールニュース
図 書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp		標準化フォーラム 〒 105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、10月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、特集「次世代統合シミュレーション技術」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■大変興味を持って読むことができました。

(匿名希望)

■特集タイトル名に対して、内容があまり統合されていないと思った。

(匿名希望)

■シミュレーション技術、特に精度保証について興味深く読みました。痛い目にあったことはありませんが、あからさまに変な計算結果にモデルを間違えたかと勘違いして悩んだりしたことはありました。道具の信頼性が上がることは素晴らしいです。

(匿名希望)

■特集「3. 放射線治療の高度化のための超並列シミュレーションシステム」では、高いエネルギーのX線しか適さないと思われていたことが、低いエネルギーでも使い次第で同等の結果が得られることがシミュレーション研究によって分かってきたところが特に印象に残りました。より正確なシミュレーションを導き出すことで、次のステップのいろいろな可能性が出てくると感じました。

(匿名希望)

■本特集は大変興味深い記事が多かったが、シミュレーションの一大分野となっている神経—脳に関するシミュレーションについても取り上げてほしかった。ニューラルネットワークやAIを含んだ神経—脳に関するシミュレーション技術の連載特集をぜひお願いしたい。

(匿名希望)

■カラーページで目を引くが、医学の専門用語が頻繁に出てきて、理解に苦しんだ。また、後半の記事は数式が多く現れるため、読むことを止めた。

(匿名希望)

小特集「ブロードバンド時代に臨む MPEG 標準化動向とコンテンツ管理技術」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■これからのコンテンツ流通に当たっては著作権保護が必須ですが、一方でロングレンジでものを見た場合、著作権切れになったところにそのコンテンツが再生できなくなってしまう問題もあります。これは「人類の知的創造の継承」という大きな命題からすると大変ゆゆしい問題です。著作権保護技術そのものに（50年、あるいは70年後に暗号が自動解除されるような）時間制限をつけられないかと思いました。

(匿名希望)

■「1. コンテンツ利用の進化と MPEG 標準化」、MPEG21の利点と今後の可能性について学ぶことができた。

(匿名希望)

■MPEGの標準化動向が整理されており、よく理解できました。

(匿名希望)



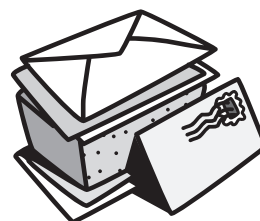
連載「これからの情報処理学会」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■学会の、いわば「自己点検」とも言うべき連載企画であり、大変興味を持って毎号読むことができました。

(水野光朗)

■今回で連載が終わりましたが、役員の方が持っているいろいろな視点と変わらなければいけないという危機感が伝わりました。東証の株式売買システムがダウンした事例のように、社会的に影響力が大きいシステムの問題について、情報処理学会として、2週間以内に見解を示すことが必要であると思います。そうすれば、本会が社会に対してもっと影響力を与える存在になると思います。

(匿名希望)



連載「仮想マシン道しるべ『VM (Virtual Machine: 仮想マシン: 仮想計算機)』のその後の発展と現状」につきましては、以下のようなご感想・ご意見をいただきました。

■著者はメインフレームと PC サーバ/WS に関して、IBM360 系とインテル系アーキテクチャしか世の中にないと誤解されているのではないのでしょうか。かなり前の研究報告『システムソフトウェアとオペレーティング・システム』(No.1982-OS-018)に NEC がメインフレームと称している ACOS-4 の VM も紹介されていますし、最近の IBM Power マイクロプロセッサ系のサーバにも VM が実装されているかと思えます。もう少し広い視野に立ってまとめるべきではないかと思えます。(匿名希望)



会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■情報処理学会の良い所は、いわゆる「権威主義」に染まっていないところにあると私は感じます。ですから「情報処理」の枠や常識にとらわれない技術者・研究者からの幅広い問題提起やユニークな発想・製品等を紹介するような記事もあるといいですね。(匿名希望)

■「標準化よもやま話」を続けてほしい。(匿名希望)

■今後、NGN (Next Generation Network) でマルチメディアデータと従来型データの混在が現実的になると思われます。NGN はいかがでしょうか？(匿名希望)

■「ソフトウェアの信頼性」というテーマを取り上げてほしいです。先日、都内では改札機器のソフトウェアの誤りで改札処理が停止しました。そのことから、システムの信頼性の中で特に、ソフトウェアの信頼性の比重が非常に大きくなっていることを実感しました。ハードウェアが故障しないために品質向上につとめることはよく理解できますが、ソフトウェアの品質というものはどこまで解決され、また、課題が残っているのでしょうか。職場の年配の方(汎用機的设计・製造を指揮されたとのこと)と話になり、ハードウェアの信頼性が低かったころのソフトウェアの書き方を教えてもらいました。こういった技術はどこに継承されたのでしょうか。また、いったん誤りが起きたときの人間系での対応等、社会インフラを支える情報技術の信頼性総論が読んでみたいです。(匿名希望)

【本欄担当 大月美佳, 松尾健史/書評・ニュース分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」<URL:<http://www.ipsj.or.jp/07editj/dokusha/dokusha.html>> に掲載していますので、そちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/michishirube/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>>

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
情報処理学会 会誌編集部門
E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax:(03)3518-8375
<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4901.html>

ご意見をお寄せ
ください!!



IPSJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2008年				
	平成19年度情報処理学会長尾真記念特別賞候補者推薦募集 http://www.ipsj.or.jp/03somu/nagao/H19/h19boshu.html	1月18日(金)		
	東海支部「平成19年度学生論文奨励賞」募集案内 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	3月14日(金)		
	論文誌「メディアインタラクシオン研究の発展」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/08-TU.html	3月20日(木)		
	論文誌「メディアインタラクシオン研究の発展(テクニカルノート)」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/08-TU.html	3月20日(木)		
	論文誌「新しい時代を切り拓くモバイル通信と高度交通システム」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-C.html	3月31日(月)		
	論文誌「日常生活におけるコラボレーション支援技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-Z.html	4月11日(金)		
	論文誌「サービス融合を支えるネットワークアーキテクチャの新展開」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-V.html	5月12日(月)		
	論文誌「組織における情報システム開発」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-X.html	5月15日(木)		
	論文誌「柔らかなサービスを支えるインターネット技術／分散システム運用・管理技術」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-W.html	5月28日(水)		
	論文誌「音声ドキュメント処理」特集への論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/08editt/journal/tokushu/09-Y.html	5月30日(金)		
1月15日(火)～ 1月16日(水)	第168回計算機アーキテクチャ・第7回組込みシステム 合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ARC168EMB7.html	11月9日(金)	当日のみ	慶應義塾大学 日吉キャンパス
1月16日(水)	東海支部主催講演会「実環境で柔軟な対話を実現する キャンパス音声情報案内端末の構築」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/		参加無料(参加 資格は問いません)	名古屋工業大学 (名古屋市)
1月16日(水)～ 1月17日(木)	第133回システムLSI設計技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SLDM133.html		当日のみ	慶應義塾大学 日吉キャンパス
1月17日(木)～ 1月18日(金)	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム (HPCS2008) http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/S-HPCS2008.html		早期割引1月 10日(木)まで	東京工業大学 大岡山キャンパス
1月17日(木)～ 1月18日(金)	第161回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CVIM161.html	10月30日(火)	当日のみ	龍谷大学
1月18日(金)	チュートリアル『ITの効果』 http://www.maebashi-it.ac.jp/~sig/is/ISTutorial2007.html		1月16日(水) 定員になり次第	日本アイ・ビー・エム (株) 本社「オーディ トリウム」
1月18日(金)	短期集中セミナー 2007「インターネット放送の現在と展望」 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/shortseminar/2007/index.html		1月11日(金) 定員になり次第	化学会館7Fホール
1月21日(月)～ 1月22日(火)	第89回情報学基礎・第183回自然言語処理合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/FI89NL183.html	11月22日(木)	当日のみ	国立情報学研究所
1月22日(火)	第150回知能と複雑系研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ICS150.html	12月12日(水)	当日のみ	慶應義塾大学 日吉キャンパス
1月23日(水)	第116回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/AL116.html	11月23日(金)	当日のみ	法政大学 市ヶ谷キャンパス
1月24日(木)～ 1月25日(金)	第67回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/PRO67.html	11月21日(水)	当日のみ	東北大学電気通信 研究所
1月24日(木)～ 1月25日(金)	第144回データベースシステム・第66回グループウェアと ネットワークサービス・第19回放送コンピューティング 研究グループ合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/DBS144GN66.html	11月23日(金)	12月26日(水) 宿泊申込締切	ホテル天坊(群馬県渋 川市伊香保町)
1月24日(木)～ 1月25日(金)	ウィンターワークショップ2008・イン・道後 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SEW2008.html	12月14日(金)		愛媛大学城北キャンパ ス/大和屋本店
1月25日(金)	第77回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CH77.html	11月27日(火)	当日のみ	東洋大学白山校舎
1月29日(火)	ソフトウェアジャパン2008 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/forumindex.html			東京ステーションコン ファレンス
1月30日(水)～ 1月31日(木)	第107回システムソフトウェアと オペレーティング・システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/OS107.html	12月5日(水)	当日のみ	奈良先端科学技術大学 院大学
1月31日(木)～ 2月1日(金)	第127回ヒューマンコンピュータインタラクシオン研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/HCI127.html	11月21日(水)	当日のみ	広島大学学生会館
1月31日(木)～ 2月1日(金)	第64回デジタルドキュメント・第39回電子化知的財産・ 社会基盤合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/DD64EIP39.html	11月22日(木)	当日のみ	鳥取環境大学
2月16日(土)～ 2月17日(日)	第93回コンピュータと教育研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CE93.html	12月21日(金)	当日のみ	東京農工大学 小金井キャンパス
2月19日(火)	東海支部主催講演会「データの可視化ー可視化技術と その応用研究の紹介ー」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/			名古屋大学(名古屋市)

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
3月3日(月)～ 3月4日(火)	インタラクション2008 http://www.interaction-ipsj.org/	一般講演10月25日(木) インタラクティブ発表11月26日(月)	早期申込割引有	学術総合センター
3月5日(水)～ 3月6日(木)	第44回モバイルコンピューティングとユビキタス通信・ 第17回ユビキタスコンピューティングシステム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/MBL44UBI17.html	1月4日(金)	当日のみ	慶應義塾大学 三田キャンパス
3月5日(水)～ 3月6日(木)	第169回計算機アーキテクチャ・第114回ハイパフォーマン スコンピューティング合同研究発表会 (HOKKE-2008) http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/ARC169HPC114.html	1月7日(月)	当日のみ	北海道大学
3月6日(木)～ 3月7日(金)	第48回分散システム／インターネット運用技術・ 第26回高品質インターネット合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/DSM48QAI26.html	12月28日(金)	当日のみ	北陸先端科学技術大学 院大学
3月7日(金)	第117回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/AL117.html	1月7日(月)	当日のみ	広島市立大学
3月7日(金)～ 3月8日(土)	第9回エンタテインメントコンピューティング研究発表会 https://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/EC9.html	1月7日(月)	当日のみ	香川大学工学部
3月10日(月)～ 3月11日(火)	ネットワーク生態学研究グループ 第4回シンポジウム http://www.jaist.ac.jp/~yhayashi/NetEcoG_top.html		定員になり次第	京都産業大学
3月10日(月)～ 3月12日(水)	第162回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/CVIM162.html	12月25日(火)	当日のみ	北陸先端科学技術大学 院大学
3月12日(水)	第19回ゲーム情報学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/GI19.html	1月12日(土)	当日のみ	東京工科大学
3月13日(木)～ 3月15日(土)	第70回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/taikai/70kai/index.html			筑波大学
3月17日(月)～ 3月18日(火)	第68回プログラミング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/PRO68.html	1月17日(木)	当日のみ	日本アイ・ビー・エム (株)東京基礎研究所
3月19日(水)	第24回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/EVA24.html	1月21日(月)	当日のみ	広島大学情報メディア 教育研究センター本館
3月21日(金)	第67回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/GN67.html	1月21日(月)	当日のみ	東京工科大学
3月27日(木)～ 3月28日(金)	第134回システムLSI設計技術・第8回組込みシステム 合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/09sig/kaikoku/2007/SLDM134EMB8.html	1月22日(火)	当日のみ	屋久島 環境文化村セン ター
6月11日(水)～ 6月13日(金)	The 4th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking (ICMU2008) http://www.icmu.org/icmu2008/			東京(秋葉原)
7月28日(月)～ 8月1日(金)	SAINT2008 International Symposium on Applications and the Internet http://www.saintconference.org/			フィンランド
8月21日(木)～ 8月22日(金)	4th International Conference on Collaboration Technologies (CollabTech2008) http://www.collabtech.org/			和歌山県 (アバロン紀の国)
9月2日(火)～ 9月4日(木)	FIT2008 第7回情報科学技術フォーラム http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/index.html			慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
11月25日(火)～ 11月27日(木)	IWSEC2008 International Workshop on Security http://www.iwsec.org/			かがわ国際会議場
2009年				
3月10日(火)～ 3月12日(木)	第71回全国大会			立命館大学びわこ・く さつキャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 12月5日 「組織における情報システム開発」特集の論文募集
- 12月3日 平成19年度業績賞候補者推薦募集：12月14日まで締切延長
- 12月3日 平成20年度会誌モニタ募集(応募締切：2月29日)

[学会からのお知らせ]

- 12月3日 PRMSの障害のご報告とお詫び
- 11月15日 論文誌(ジャーナル)の論文査読状況を更新しました
- 10月23日 本日、12:00～13:00までサーバメンテナンスを行います。作業中、学会のメールサービスが停止します。ご迷惑をおかけいたしますが、ご了承ください。

人材募集 (有料会告)



申込方法：任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へE-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限：毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金：国公立教育機関、国公立研究機関 21,000円（税込）
賛助会員（企業） 31,500円（ 〃 ）
賛助会員以外の企業 52,500円（ 〃 ）
*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,000円で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申 込 先：情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375
*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■国立天文台 ALMA 推進室

募集人員 特定契約職員（専門研究職員） 若干名
専門分野 国立天文台で推進している日米欧国際共同プロジェクトALMAのComputing開発業務、特にデータ解析ソフトウェアの開発
•単一鏡および干渉計型電波望遠鏡のデータ解析ソフトウェアの作成
•CORBAを経由しての他のALMAソフトウェアと共同で動作するシステムの開発
•米欧ALMAが作成した文書の調査、ソースコードの解読
なお、仕事を進めるにあたり米欧の開発者との英語によるコミュニケーションが必要
応募資格 少なくとも1つの高級言語（C, C++, Java, など）に堪能なこと。XML, CORBAなどの知識があれば、より好ましい。英語に堪能なこと（TOEIC800点以上または英検準1級以上相当）
着任時期 平成20年4月1日
提出書類 履歴書、計算機に関するこれまでの経験を含め抱負をまとめた文章（A4用紙2枚程度）、できるだけ迅速に連絡がとれる連絡先（複数可）
応募締切 平成20年1月31日（必着）
送付先 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台 ALMA推進室長 長谷川哲夫
照会先 ALMA推進室 立松健一 E-mail:k.tatematsu@nao.ac.jp
その他 詳細はWebページ（<http://www.nao.ac.jp/>）の「採用情報・研究公募」を参照ください

■島根大学総合理工学部数理・情報システム学科

募集人員 助教 1名
専門分野 計算機工学／計算機科学
着任時期 平成20年5月1日以降のできるだけ早い時期
応募資格 博士号取得者（取得見込みも含む）で教育研究に熱意のある方。情報分野の実験、実習、演習の指導およびネットワークの管理ができる方。国籍、性別、宗教を問わない
提出書類 履歴書、研究業績（業務経歴を含む）、主要論文または報告書の別刷（5編以内、コピー可）、今後の教育・研究に対する抱負、参考意見をいただける方の氏名と連絡先（2名）
応募締切 平成20年2月15日（必着）
送付先 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 島根大学 総合理工学部長 竹内 潤
「数理・情報システム学科（情報）教員応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は必ず書留
照会先 数理・情報システム学科 田中章司郎 E-mail:tanaka@cis.shimane-u.ac.jp Tel(0852)32-6518
その他 選考にあたっては書類審査後、面接を実施することがあります。選考結果は応募者ご本人に通知します
Webページ（<http://www.cis.shimane-u.ac.jp/>）

■新潟大学総合情報処理センター

募集人員	技術職員（常勤） 1 名（3 年間の任期制，再任あり）
職務内容	新潟大学の学内情報基盤（ネットワークおよび電子計算機システムなど）の管理・運用，その他総合情報処理センターに関する業務
応募資格	情報系または関連分野の修士以上の学位を有すること，またはこれと同程度の学識・経験を有する方 情報機器に精通していること 英語が堪能なこと
着任時期	平成 20 年 4 月 1 日（または，以降のできるだけ早い時期）
応募締切	平成 20 年 2 月 15 日（必着）
そ の 他	詳細は総合情報処理センター Web ページ（ http://www.cc.niigata-u.ac.jp/ ）の募集要項をご覧ください

■電気通信大学情報通信工学科

募集人員	准教授 1 名
専門分野	通信システム，光通信などをベースとした情報ネットワーク
担当科目	論理回路学，情報ネットワークなどの学部科目およびネットワーク制御・管理特論などの大学院科目
応募資格	博士の学位を有し，専門分野で顕著な研究業績がある方，教育に対して熱意がある方，大学院での研究指導が可能であること
着任時期	平成 20 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期
提出書類	履歴書，業績リスト，主要論文別刷（5 編程度），これまでの研究活動の内容と自己評価，就任後の研究・教育・社会貢献に関する抱負，本人について照会可能な方 4 名以上（海外研究者 2 名を含む）の氏名・所属・連絡先
応募締切	平成 20 年 2 月 22 日（必着）
送 付 先	〒 182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 電気通信大学・情報通信工学科 学科長 安藤 清
照 会 先	情報通信工学科 三木哲也 E-mail:miki@ice.uec.ac.jp Tel(042)443-5195
そ の 他	詳細情報 Web ページ（ http://www.ice.uec.ac.jp/topics/koubo/080222-p.html ）



FIT2008 第7回情報科学技術フォーラム 査読付き論文・一般論文 発表募集案内

FIT2008 公式サイト <http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/fit/fit2008/>

査読付き論文受付期間(予定): 2008年3月10日(月)～4月24日(木)

一般論文 受付期間(予定): 2008年5月1日(木)～5月30日(金)

会 期: 2008年9月2日(火)～4日(木)

会 場: 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス (神奈川県藤沢市遠藤 5322)

○論文ページ数: 2～4ページ ○講演時間: 20分

※3ページ目以降はエクストラページ料金(3,000円/ページ)が必要です

電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ (ISS) 並びにヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) と情報処理学会 (IPSJ) とは、2002年から合同で毎年秋季に、「情報科学技術フォーラム (FIT: Forum on Information Technology)」を開催しており、2008年9月には第7回目を慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで開催します。

本フォーラムは、ISS ソサイエティ大会と IPSJ 全国大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流、などを実現してきており、前回の FIT2007 では 853 件の論文発表が行われました。

皆様の研究成果発表の場として、標記のとおり論文発表を募集致しますので奮って御応募下さい。

●申込み主要日程(予定)

※査読付き論文と一般論文では、登録申込/投稿受付開始時期が異なりますのでご注意下さい。

■査読付き論文

登録申込/投稿受付開始: 平成20年3月10日(月)

登録申込〆切り/査読用原稿の投稿〆切り:

平成20年4月24日(木)

査読の採否結果通知: 平成20年6月23日(月)

カメラレディ投稿〆切り: 平成20年7月4日(金)

■一般論文

登録申込/投稿受付開始: 平成20年5月1日(木)

登録申込〆切り: 平成20年5月30日(金)

カメラレディ投稿〆切り: 平成20年7月4日(金)

※登録申込と原稿投稿は、すべてWebを通じて行って頂きます。上記のFIT2008公式サイトからお願い致します。

※登録申込、原稿投稿要領の詳細は、決定次第 FIT2008 公式サイトでお知らせ致します。

●査読付き論文

査読付き論文は、FIT 設立に伴い新たに導入された企画です。

査読者や読者に研究内容が十分に伝わるように、最大4ページに制限緩和された論文ページ数を活用して下さい。また、採録された論文の中から、査読会議において各分野の応募総数の5%を上限として優秀な論文を推薦、その中から船井ベストペーパー賞3件、FIT論文賞7件程度を選定し、表彰式(FIT2008会期中)にて表彰いたします。船井ベストペーパー賞受賞論文には船井情報科学振興財団より賞金20万円、FIT論文賞受賞論文にはFIT推進委員会より賞金5万円を贈呈します。皆様、是非ともチャレンジして下さい。

なお、査読付き論文に投稿されて不採録となった場合には、一般論文として扱います。

※査読を申し込まれた論文につきましては、講演を取り消された場合でも講演参加費はお支払い頂きますのでご了承下さい。

※一部の研究分野では査読付き論文の募集を致しません。査読付き論文の募集を行う研究分野については、Webページをご覧下さい。

●一般論文

当該FITでの発表件数の1.5%を上限として、2008年12月31日現在で33歳未満の講演者(査読付き論文および一般論文)を対象に優れた発表を選定し、ヤングリサーチャー賞(賞金3万円)としてFIT2009の表彰式で贈呈します。

●問合せ先

105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館

社団法人 電子情報通信学会 集会事業部 FIT 担当 TEL. 03-3433-6691 FAX. 03-3433-6616 e-mail: ieicefit@ieice.org



ソフトウェアジャパン 2008 開催のご案内

テーマ：仮想社会が何をもたらすか

<http://www.ipsj.or.jp/10jigyo/forum/software-j2008/>

開催日時：平成 20 年 1 月 29 日（火） 9:30-17:40
開催会場：東京ステーションコンファレンス（JR 東京駅 日本橋口より徒歩 0 分）

主催：情報処理学会

協賛：独立行政法人 情報処理推進機構ソフトウェア・エンジニアリング・センター，社団法人 情報サービス産業協会，
社団法人 日本情報システムユーザ協会，社団法人 電子情報技術産業協会，XML コンソーシアム，
社団法人 電子情報通信学会，日本ソフトウェア科学会

後援：文部科学省，総務省，経済産業省

情報処理学会では IT プロフェッショナル（実務家）のためのシンポジウムとして 2004 年度から毎年度「ソフトウェアジャパン」を開催しております。本シンポジウムは、ソフトウェア分野の産・官・学の交流を促進する場として、また実務家へのサービスの一環として開催をスタート致しましたが、現在はソフトウェア産業のみならず IT に関する幅広い課題を実務家の視点からオープンに議論できる開かれたコミュニティとして当会で 2006 年度より活動をスタートしたオンラインミーティングを中心とする「IT フォーラム」にも本イベントに参画いただくことで、より幅広い内容についての議論ができる場となっております。現在は以下 8 つのフォーラムが立ち上がり活動をしております。

サービスサイエンスフォーラム / Web2.0 フォーラム / ユーザスタディフォーラム / イノベティブ社会基盤フォーラム / 福祉情報システムフォーラム / IT ダイバーシティフォーラム / 高度 IT 人材育成フォーラム / IT アーキテクト/CIO フォーラム

このような背景のもと、IT 関連業界において現場で活躍されている産業界の方々を中心に、学界・官公庁関係の方々、次世代を担う若手の技術者・研究者の方々等、社会の多くの方々とともに問題意識を共有し議論、交流を深められる場として「ソフトウェアジャパン 2008」を開催致します。皆様奮ってご参加ください。

- 参加費：一般（会員・非会員共）：5,000 円 / 一般 IT フォーラム登録者（会員・非会員共）：無料
学生（会員・非会員共）：無料
- 参加申込：標記のソフトウェアジャパン 2008 Web ページから申込み下さい。
- 参加申込締切：平成 20 年 1 月 22 日（火）17:00 [定員 400 名になり次第締切]
- 問合せ先：情報処理学会事業部門 Tel.(03)3518-8373 E-mail:jigyo@ipsj.or.jp 詳細は Web ページをご覧ください。

■全体プログラム

9:30-11:55 第1セッション：バーチャルワールド セッション		【会場 5F サビアホール】
9:30-10:15	招待講演(1)「仮想世界にあるリアリティ」 佐々木 博（オフィス創庵 代表取締役）	
10:20-11:05	招待講演(2)「リアルとバーチャルのあいだ」 廣瀬 通孝（東京大学大学院情報理工学系研究科 教授）	
11:10-11:55	招待講演(3)「デジタル物づくりのめざすもの」 間瀬 俊明（デジタルプロセス(株) 代表取締役社長）	
11:55-12:05 IT フォーラムの紹介(IT フォーラムセッションのイントロダクション)		【会場 5F サビアホール】
徳田 英幸（情報処理学会 技術応用運営委員会 委員長／ 慶應義塾大学環境情報学部教授兼政策・メディア研究科委員長）		
12:05-13:15 ランチ懇親会（無料）※参加申込者の方は無料でご参加頂けます		【会場 6F 605ABC 606】
13:15-15:15 第2セッション：IT フォーラム セッション *各フォーラムセッションのプログラムは次ページ以降参照		【会場 各 IT フォーラム会場】
以下 7 つの IT フォーラムによるセッション ・サービスサイエンスフォーラム ・Web2.0 フォーラム ・ユーザスタディフォーラム ・イノベティブ社会基盤フォーラム ・福祉情報システムフォーラム ・IT ダイバーシティフォーラム ・高度 IT 人材育成フォーラム		
15:30-17:35 第3セッション：ザ・ジャパンソフトウェア セッション		【会場 5F サビアホール】
15:30-16:30	招待講演(1)「ダイバーシティと経営戦略」 内永 ゆか子（日本アイ・ビー・エム(株) 技術顧問 / NPO 法人 J-win 理事長）	
16:35-17:35	招待講演(2)「ゲーム木探索の最適制御 一将棋における局面評価の機械学習」 保木 邦仁（東北大学大学院理学研究科 助教）	
17:35-17:40 Closing		【会場 5F サビアホール】
松井 くにお（情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2008 実行委員会 委員長／米国富士通研究所 Vice President）		

■第2セッション：ITフォーラムセッション プログラム（13:15-15:15）

サービスサイエンス フォーラム「サービスサイエンスの具体的な取り組み」		[会場 5F 503A]
【セッション概要】サービスサイエンスへの期待は高まっており、具体的な取り組みが始まりつつある。そこで本セッションではまず菊池隆先生（東京工業大学経営工学系特任教授）にサービスの本質について話していただき、次に諏訪がサービスサイエンスの一つの大きなテーマである「サービスの定義」を提言する。これまでに作られてきたサービスの定義を振り返り、今回新しい「サービスの定義」を紹介する。パネルディスカッションでサービスの本質とサービスの定義を議論し、サービスサイエンスの理解を深める。		
13:15-13:55	講演 1「サービスの本質に迫る」 菊池 隆（東京工業大学 経営工学系 21 世紀 COE 特任教授） 鴨志田 晃（東京工業大学 統合研究院 ソリューション研究機構 イノベーション研究センター 特任教授）	
13:55-14:15	講演 2「サービスを定義する」 諏訪 良武（ワクコンサルティング(株) 常務執行役員）	
14:25-15:15	パネル討論「サービスの本質とサービスの定義」 司 会:門倉 純一（日本アイ・ビー・エム(株)） パネリスト:安部 忠彦（(株)富士通総研 経済研究所 取締役研究主幹） 菊池 隆（東京工業大学 経営工学系 21 世紀 COE 特任教授） 岸良 裕司（(株)ビーイング 取締役） 諏訪 良武（ワクコンサルティング(株) 常務執行役員） 日高 一義（日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所 部長）	
Web2.0 フォーラム「知識管理革新の手段としての Web 2.0」		[会場 5F 503B]
【セッション概要】Web 2.0 は単なるパスワードを越え、IT の世界における重要メガトレンドとしての地位を確立したと考えられる。特に、IT 産業においては、Web 2.0 の考え方を特定組織内で活用しようという動きが顕著である。本セッションでは、そのような「組織内 Web 2.0」に特にフォーカスを当て、今後の動向と可能性を探ることしたい。		
13:15-14:05	講演「KM 2.0 の可能性」 栗原 潔（(株)テックバイザージェイビー 代表取締役・弁理士／金沢工業大学 客員教授）	
14:15-15:15	パネル討論「企業内 Web 2.0 の可能性と課題」 司 会:栗原 潔（(株)テックバイザージェイビー 代表取締役・弁理士／金沢工業大学 客員教授） パネリスト:砂金 信一郎（リアルコム(株)マーケットデベロップメントグループ プリンシパル） 渡辺 聡（渡辺聡事務所 代表）	
ユーザスタディ フォーラム「ビジネス・エスノグラフィ入門」		[会場 5F 503C]
【セッション概要】従来の仮説検証型のユーザ調査に限界を感じ、エスノグラフィに代表される仮説構築型の調査技法に注目を始めている。しかし、これまでのエスノグラフィは、長期間にわたるフィールドワークと解釈の繰り返しによって成立し、また、プロセスの標準化が進んでいないことなどから、時間や人材に限りのあるビジネスのフロントラインでは導入しづらいという問題があった。そこで、本セッションでは、エスノグラフィの本質を生かしつつ、企業のビジネスプロセスに則った調査技法を紹介する。「ビジネス・エスノグラフィ」と呼ばれるこれらのテクニックは、講演者らによって開発・体系化が進められているものだが、同様の流れは、米国で 2005 年に開始された、EPIC (Ethnographic Praxis in Industry Conference) という国際会議の存在にも見て取ることができる。本セッションでは、合わせて、2007 年 10 月に開催された EPIC2007 における主要な話題をまとめて紹介する。		
13:15-14:05	講演 1「ビジネス・エスノグラフィ入門－技法と実践」 田村 大（(株)博報堂 研究開発局 上席研究員／マーケティングセンター フォーサイト部 リサーチディレクター）	
14:15-15:15	講演 2「ビジネス・エスノグラフィ－米国最新事情－EPIC2007 報告－」 新井田 統（(株)KDDI 研究所 特別研究員） 久保岡 綾（コニカミノルタテクノロジーセンター(株) イメージング文化研究所 研究員）	
イノベティブ社会基盤 フォーラム「イノベーションの現場から」		[会場 5F 503D]
【セッション概要】イノベティブ社会基盤フォーラムは、企業組織や社会におけるイノベーションを高めるためにどのような取り組みが必要かという問題意識を持ち、イノベーションが高いと考えられる企業へのインタビューや関連文献の調査を行い、その具体的解明に向けた取り組みを進めている。取り組みの代表的なものとして、各組織におけるイノベーションの度合いを評価するための指標として「イノベーションテスト」を考案し、各企業を分類している事があげられる。昨年度のセッションでは、この「イノベーションテスト」に基づいた分析結果を発表した（昨年度の内容については、 http://www.itmedia.co.jp/bizid/articles/0701/25/news105.html ）。今回のセッションでは、昨年のセッション以降に取り組んできた様々な企業インタビューや議論から得られた知見を紹介すると共に、各企業内でイノベーションを高めるためにどのような取り組みが必要であるかという点について、来場者の方々と共に議論していく。（前回に引き続き、来場者の方々は PC を持参下されば、議論に参加できる仕組みを提供する事を予定しています）。		
13:15-13:45	基調講演「イノベーションは組織力で生み出せるのか」 許斐 俊充（日本ナショナルインスツルメンツ(株) マーケティング部 部長）	
13:55-15:15	パネル討論「学生から見たIT産業－IT産業は学生からの人気を回復できるか－」 司 会:斎藤 健二（アイティメディア(株)ビジネス・メディア事業部長） パネリスト:大向 一輝（国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 助手） 小野 和俊（(株)アプレッソ 代表取締役副社長 CTO） 楠 正憲（マイクロソフト(株) 技術統括室 CTO 補佐） 許斐 俊充（日本ナショナルインスツルメンツ(株) マーケティング部 部長） 神成 淳司（慶應義塾大学 環境情報学部 専任講師） 中嶋 謙互（コミュニティーエンジン(株) 代表取締役 CEO）	

福祉情報システム フォーラム「リアルタイム情報保障の現場」		【会場 6F 602A】
【セッション概要】会議・講演などのリアルタイム情報保障をとりあげる。法廷の速記官は、特殊な同時打鍵法を用いる専用のタイプライターにより、ひとりで、長時間、リアルタイムに裁判記録を残していく。電子速記タイプの速記記号を取り込み和文に直すためのソフトウェア「はやとくん」は、裁判記録の迅速な反訳に貢献してきた。その「はやとくん」がリアルタイム情報保障の担い手としても注目されている。本セッションでは、「はやとくん」の開発者である遠藤氏から「速記技術『はやとくん』の文字出力」、同じく「IPtalk」の開発者である栗田氏から「パソコン要約筆記の特徴と入力方法の改良」という演題で、それらの特徴や開発の背景、最近の動向についてお話を伺う。また、「ソフトウェアの連携による手頃な字幕提示方式」として、プレゼンソフトとの連携により行ってきた手頃な字幕提示を、情報保障ソフト間で行う際の課題等についても整理する。また、本セッションの講演は、ワードワープの春名氏らの手により「はやとくん」によって字幕化される。		
13:15-13:30	講演 1「電子速記『はやとくん』を伝えたい」 春名 邦子（(株)ワードワープ 取締役）	
13:30-14:00	講演 2「速記技術『はやとくん』の文字出力」 遠藤 基資（電子速記研究会 会長）	
14:00-14:30	講演 3「パソコン要約筆記の特徴と入力方法の改良」 栗田 茂明（パソコン要約筆記サークル「ラルゴ」 会長）	
14:30-14:45	講演 4「ソフトウェアの連携による手頃な字幕提示方式」 秋川 友宏（静岡大学 情報学部 助手）	
14:45-15:15	自由討論:「情報保障の現場とツール開発の現場」 司 会:秋川 友宏（静岡大学 情報学部 助手） パネリスト:遠藤 基資（電子速記研究会 会長） 栗田 茂明（パソコン要約筆記サークル「ラルゴ」 会長）	
ITダイバーシティ フォーラム「企業の経営課題:女性の活躍を加速するダイバーシティマネジメント」		【会場 6F 602B】
【セッション概要】昨今ダイバーシティマネジメントは、IT 企業にとって大きな経営課題の一つとなっており、推進のための部署や委員会を設置し、女性のリーダをアサインする企業が増えてきている。IT ダイバーシティフォーラムのセッションでは、このような企業の取り組みを紹介してもらい、真に女性の活躍を加速するには、組織としてどのような施策があるか、どう展開すれば役立つかを考えたい。本セッションの講演者は、研究者、技術者であり、現在はそれぞれの企業のダイバーシティマネジメントに関わっている女性である。なお、ザ・ジャパンソフトウェア セッションで、日本アイ・ビー・エム株式会社技術顧問の内永ゆか子氏が講演されるが、氏は日本におけるダイバーシティマネジメントの開拓者でもあり、講演の中でダイバーシティマネジメントも取り上げて頂く。		
13:15-13:45	講演 1「東芝における多様性推進の取り組み」 岩切 貴乃（(株)東芝 多様性推進部 部長）	
13:45-14:15	講演 2「システム構築最前線でのダイバーシティ」 中島 淑乃（伊藤忠テクノソリューションズ(株)エンタープライズビジネス第2本部文教システム部 部長）	
14:15-14:45	講演 3「準備中」 藤本 昌代((株)日立製作所 金融システム事業部 金融システム第一本部第一部 担当部長 兼 情報・通信グループ女性カウンセル 副リーダ)	
14:45-15:15	パネル討論「ダイバーシティマネジメント活動のいろいろ:課題,工夫,効果」 司 会:安信 千津子（(株)日立コンサルティング テクニカルディレクター） パネリスト:岩切 貴乃（(株)東芝 多様性推進部 部長） 中島 淑乃（伊藤忠テクノソリューションズ(株)エンタープライズビジネス第2本部文教システム部 部長） 藤本 昌代((株)日立製作所 金融システム事業部 金融システム第一本部第一部 担当部長 兼 情報・通信グループ女性カウンセル 副リーダ)	
高度IT人材育成 フォーラム「ソフトウェアプロセス改善と人材育成」		【会場 6F 602C】
【セッション概要】ソフトウェア品質を保証し、ソフトウェア開発リスクを低減するためには、開発組織に適したソフトウェアプロセスを定義して実践すると同時に、プロセスを継続的に改善するためのPDCA サイクルを構築する必要がある。IPA/SEC は、ISO/IEC 15504 に基づいたプロセス改善の推進の一環としてソフトウェアプロセスのアセスメントモデル SPEAK IPA 版を開発し、平成 19 年 9 月に公表した。また、平成 19 年末には SPEAK IPA 版に基づいたアセッサの教育についてもまとめる予定である。ソフトウェアプロセス改善を進めるためには、プロセスの定義・実践・改善を行える人材の育成はもとより、ソフトウェアプロセスを評価するアセッサの育成が不可欠である。本セッションでは、産業構造審議会 人材育成 WG が発表した「高度 IT 人材の育成をめざして」や、総務省が推進している「情報システム調達に係る政府調達の基本方針」等との関連も含め、ソフトウェアプロセス改善やそれを支える IT 人材育成を推進するための方策について議論を行う。		
13:15-13:35	講演 1「ユーザー企業におけるプロセス改善の取り組み」 足立 久美（(株)デンソー 電子技術3部 品質リーダー 主幹(次長格)）	
13:35-13:55	講演 2「プロセス改善におけるプロセスアセスメントの適用」 北野 敏明（IPA ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタープライズ系プロジェクト研究員）	
13:55-14:15	講演 3「プロセス改善における人材育成の重要性」 掛下 哲郎（佐賀大学 理工学部 知能情報システム学科 准教授）	
14:15-15:15	パネル討論「日本におけるプロセス改善の普及と人材育成の課題」 司 会:新谷 勝利(IPA ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタープライズ系プロジェクト研究員) パネリスト:足立 久美((株)デンソー 電子技術 3 部 品質リーダー 主幹(次長)) 小浜 耕己(住生コンピュータサービス(株)品質保証部 統括マネジャー) 掛下 哲郎(佐賀大学 理工学部 知能情報システム学科 准教授) 北野 敏明(IPA ソフトウェア・エンジニアリング・センター エンタープライズ系プロジェクト研究員)	

マルチコアプログラミングコンテスト Cellスピードチャレンジ2008

主催 情報処理学会
計算機アーキテクチャ研究会
組込みシステム研究会
ハイパフォーマンスコンピューティング研究会

協賛 財団法人 北九州産業学術推進機構 (FAIS)
株式会社 東芝セミコンダクター社
ソニー 株式会社
株式会社 ソニー・コンピュータエンタテインメント (SCE)
日本アイ・ビー・エム 株式会社

概要

マルチコアプロセッサが広く市場に出回り、SCEのPLAYSTATION®3にもヘテロジニアスなマルチコアプロセッサ Cell Broadband Engine™ (Cell/B.E.) が搭載されるなど、マルチコア環境はめずらしいものではなくなってきました。

一方でこのような環境を効率的に利用するための並列化プログラミングには、スケラビリティや並行タスクの発見・生成、スレッド化をいかに行うかが課題となります。このような中、情報処理学会 計算機アーキテクチャ研究会、組込みシステム研究会、ハイパフォーマンスコンピューティング研究会では前年「Cellスピードチャレンジ」を開催し、ご好評をいただきました。これを受けまして、来年も先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS2008の併設企画として、Cell/B.E.を対象とするマルチコアプログラミングコンテストを開催させていただくことになりました。

参加条件

参加はチーム単位で、規定課題部門・自由課題部門のいずれか、もしくは両方に登録できます。チームの構成人員は、1人以上であれば制限はなく、1チームに1つのCell Open Cafeアカウントを発行します。参加には、以下の条件を満たしていただく必要があります。

規定課題・自由課題 共通

- ・チーム全員がFAISの提供するCell Open Cafe利用規約、および東芝の提供するCell Users' Groupの会員規約・コミュニティボード利用規約に同意いただけること。
- ・2~4ページのドキュメントを公開資料としてご提供いただけること。
- ・協賛各社でインターンシップ中の学生や従業員でないこと。
- ・成績優秀者となった場合 SACSIS2008に参加し、登壇発表、ポスターセッションでの発表を頂き、その際の発表スライドを公開資料としてご提供いただけること。

規定課題のみの追加条件

- ・チームの全メンバーが、高校、高専、大学、大学院またはこれに準ずる学校の学生であること。
- ・同一参加者が規定課題部門の複数チームに所属しないこと。
- ・公開資料として、GPL2に基づきソースコードを提供いただけること。

なお、条件は予告なく変更になることがあります。参加方法等の最新の詳細につきましては、コンテストウェブページ

<http://www.hpcc.jp/sacsis/2008/cell/>

をご覧ください。たくさんのご参加をお待ちしています。

委員会

アドバイザリ委員会

委員長 中村 宏 (東大)
高田 広章 (名大)
中島 浩 (京大)
朴 泰祐 (筑波大)

実行委員会

委員長 吉瀬 謙二 (東工大) 近藤 正章 (東大)
副委員長 津邑 公暁 (名工大) 阪本 正治 (日本 IBM)
問題作成委員長 片桐 孝洋 (東大) 菅原 豊 (東大)
合田 憲人 (NII) 高橋 大介 (筑波大)
有松 修一 (FAIS) 瀧塚 博志 (SCE)
井上 弘士 (九大) 富山 宏之 (名大)
追川 修一 (筑波大) 中田 尚 (奈良先端大)
大津 金光 (宇都宮大) 中田 秀基 (産総研)
木村 啓二 (早大) 福田 悦生 (東芝 SCE)
光来 健一 (東工大) 山崎 剛 (SCE)
近藤 伸宏 (東芝 SCE) 吉見 真聡 (慶大)

表彰

規定課題・自由課題のそれぞれ上位3チーム程度を成績優秀者とし、SACSIS2008において表彰を行います。

「Cellスピードチャレンジ2007」では上位入賞者に対し、東芝から47V型液晶テレビ、HD DVDプレーヤー、HDD DVDレコーダ、SCEからPLAYSTATION®3(5台)を賞品としてご提供いただきました。今回はこれらと同等の豪華賞品に加え、FAISからも賞をご提供いただける予定です。



重要日程 (予定)

2008/01/11 規定課題詳細、ツールキット公開
2008/02/01 参加受付メチ、予選ラウンド開始
2008/03/10 規定課題 予選ラウンド終了、自由課題終了
2008/03/17 規定課題 決勝ラウンド開始
2008/03/31 規定課題 決勝ラウンド終了
2008/06/11~ SACSIS2008にて表彰

規定課題概要

規定課題は「連立一次方程式の求解」です。たとえば、以下の3変数による連立一次方程式の解は、消去法により求めることができます。

$$\begin{cases} 3x + y + 4z = 17 \\ x + 5y + 9z = 38 \\ 2x + 6y + 5z = 29 \end{cases}$$

$$\begin{cases} 3x + y + 4z = 17 \\ (14/3)y + (23/3)z = 97/3 \\ (16/3)y + (7/3)z = 53/3 \end{cases}$$

$$\begin{cases} 3x + y + 4z = 17 \dots (1) \\ (14/3)y + (23/3)z = 97/3 \dots (2) \\ (-135/21)z = -405/21 \dots (3) \end{cases}$$

以上の消去を、前進消去と呼びます。解は、以下のように求めることができます。

$$\text{式 (3) より, } z = 3 \dots (4)$$

$$\text{式 (2) に, 式 (4) を代入して, } y = 2 \dots (5)$$

$$\text{式 (1) に, 式 (4) と式 (5) を代入して, } x = 1.$$

以上の操作を、後退代入と呼びます。前進消去と後退代入などを利用して、与えられた連立一次方程式を解くことを、連立一次方程式の解法と呼びます。

左辺の係数を行列表記、右辺の値と解の変数をベクトル表記します。すなわち、

$$A = \begin{pmatrix} 3 & 1 & 4 \\ 1 & 5 & 9 \\ 2 & 6 & 5 \end{pmatrix}, \quad x = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix}, \quad b = \begin{pmatrix} 17 \\ 38 \\ 29 \end{pmatrix}$$

とし、連立一次方程式

$$Ax = b$$

の解ベクトル x を求めるのが問題です。ここで、今回の規定課題では、解ベクトル x が1本である保証はありません。すなわち、 m 本の解ベクトルをまとめた行列 X を

$$X = (x_1 \ x_2 \ \dots \ x_m)$$

とし、 m 本の右辺ベクトル b をまとめた行列 B を

$$B = (b_1 \ b_2 \ \dots \ b_m)$$

とすると、

$$AX = B$$

の解ベクトル行列 X を解く問題と定義できます。

*PLAYSTATION®は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
*Cell Broadband Engine™は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。

<http://www.hpcc.jp/sacsis/2008/cell/>

◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集，参加案内等）の本誌掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金（消費税込）	
論文募集／ 参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショップ，講演会，講習会などの論文募集・参加者募集	1 ページ，1/2 ページまたは 1/4 ページ	（主催・共催）	
			1 ページ	52,500 円
			1/2 ページ	31,500 円
			1/4 ページ	21,000 円
			（協賛）	
			広告として取り扱う	
人材募集	国公立教育機関，国公立研究機関， 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関，国公立研究機関	21,000 円
			賛助会員（企業）	31,500 円
			賛助会員以外の企業	52,500 円
＊本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り，追加料金 4,000 円で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。				

■申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先，Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

- 行事次第書： A4 判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。

（1 ページ） 天地 260mm × 左右 175mm

（1/2 ページ） 天地 130mm × 左右 175mm

（1/4 ページ） 天地 65mm × 左右 175mm

* A4 判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。

- 人材募集： 次の項目を明記し，E-mail または Fax，郵送にてお送りください。

[募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]

* なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

■申込期限

毎月 15 日を締切日とし，翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金

掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先

（社）情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係）

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F

E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375

平成 20 年度会誌モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をよりよくするために編集委員一同努力を続けておりますが、会誌についての会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 会誌毎号の本誌巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) から、毎月アンケートに回答する。

- 記事に対する評価
- 記事に対する感想・意見
- 記事テーマの提案
- そのほか全般的な意見・提案など

注) 会誌の記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として 1 年間とします。

対 象 号 会誌 49 巻 4 号～ 50 巻 3 号

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 平成 20 年 2 月 29 日 (金) 必着 * 申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込／照会先 情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

平成 20 年度会誌モニタ申込書

宛先：情報処理学会 会誌編集部門 (モニタ係)

E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax: (03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種：(a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (e) 学生 (f) その他

職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教官 (大学・大学院) (h) 教職員 (i) 学生 (j) その他

書評・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。

- a) 書 評 : 過去2年間に出版された、本学会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。
- b) 会議レポート: 情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本学会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本学会員に限ります。

3. 応募の手続き

- 1) 表 題: 書評の場合は、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。
会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) 評者名(会議レポートの場合は筆者名)・所属・評者連絡先(住所、E-mail、Faxなど)の記載を忘れずに。
- 3) 本 文: 書評、会議レポートとも2,100字前後で書く。
- 4) (必要であれば)参考文献、付録、図、表をつける。
詳しくは「原稿執筆案内」(<http://www.ipsj.or.jp/07editj/toukou/shippitsu/kaishi.html>)を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会／応募先 (社)情報処理学会 会誌編集部門 E-mail:editj@ipsj.or.jp

～*～*～ 会員サービスのご案内 ～*～*～

会員の皆様の特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします(本会 Web ページ: <http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/service-ta.html> 参照)。会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門(E-mail:mem@ipsj.or.jp)までお寄せください。

ホテル (10～53%割引)

サンルートホテル、ホテル法華クラブ、JR ホテルグループ、東急ホテルズ、プリンスホテル、
阪急阪神第一ホテルグループ、JR 東日本ホテルチェーン、グランビスタホテル&リゾート、都ホテルズ & リゾーツ、
ホテル京急グループ、ダイワロイヤルホテルズ、エイチアールエヌ、ウィクリーマンション東京

レンタカー (10～51%割引)

ニッポンレンタカー、日産レンタカー、マツダレンタカー

パック旅行 (3～7%割引)

日本旅行、近畿日本ツーリスト、トップツアー、京王観光、ジャルパックサービス、エンターティメントエクスプレス

その他(書籍・コンピュータソフト割引販売、レンタルオフィス)

UC 丸善アカデミックカード、パーシティウェブ(教育機関所属の方はアカデミック価格で)、デスクット、
日本工業技術振興協会

ITText 一般教育シリーズ 情報システム基礎

神沼靖子 編著
A5判/228頁/本体2,500円(税別)

ITText 一般教育シリーズ 情報と社会

駒谷昇一 編著
A5判/220頁/本体2,500円(税別)

ITText 一般教育シリーズ 情報とコンピューティング

河村一樹 編著
A5判/218頁/本体2,500円(税別)



新刊!!

ITText データマイニングの基礎

元田 浩・津本周作・山口高平・沼尾正行 共著
A5判/292頁/本体3,200円(税別)

ITText 自然言語処理

天野真家・石崎 俊・宇津呂武仁・成田真澄・福本淳一 共著
A5判/192頁/本体2,500円(税別)

好評既刊書

ITText コンパイラとバーチャルマシン

今城哲二・布広永示・岩澤京子・千葉雄司 共著
A5判/212頁/本体2,800円(税別)

ITText コンピュータグラフィックス

魏 大名・Carl Vilbrandt・Roman Durikovic・先田和弘・向井信彦 共著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText コンピュータネットワーク

松下 温・重野 寛・屋代智之 共著
A5判/216頁/本体2,500円(税別)

ITText 音声認識システム

鹿野清宏・伊藤克巨・河原達也・武田一哉・山本幹雄 編著
A5判/216頁/CD-ROM付/本体3,500円(税別)



ITText エージェント工学

西田豊明・木下哲男・北村泰彦・間瀬健二 共著
A5判/226頁/本体2,800円(税別)

ITText ヒューマンコンピュータインタラクション

岡田謙一・西田正吾・葛岡英明・塩澤秀和・仲谷美江 共著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText オペレーティングシステム

野口健一郎 著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText データベース

速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 共著
A5判/196頁/本体2,500円(税別)

ITText ソフトウェア工学演習

伊藤 潔・廣田豊彦・富士 隆・熊谷 敏・川端 亮 共著
A5判/228頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報リテラシー

海野 敏・田村恭久 共著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText 人工知能

本位田真一 監修・松本一教・宮原哲浩・永井保夫 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)

ITText コンピュータアーキテクチャ

内田啓一郎・小柳 滋 共著
A5判/236頁/本体2,800円(税別)

ITText 応用Web技術

市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/210頁/本体2,500円(税別)

ITText 認知インタフェース

加藤 隆 著
A5判/248頁/本体2,800円(税別)

ITText プログラム仕様記述論

荒木啓二郎・張 漢明 共著
A5判/210頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報と職業

駒谷昇一・辰巳丈夫・楠元範明 共著
A5判/232頁/本体2,500円(税別)

ITText アルゴリズム論

浅野哲夫・和田幸一・増澤利光 共著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)

ITText ソフトウェア開発

小泉寿男・辻 秀一・吉田幸二・中島 毅 共著
A5判/224頁/本体2,800円(税別)

ITText 基礎Web技術

松下 温 監修/市村 哲・宇田隆哉・伊藤雅仁 共著
A5判/200頁/本体2,500円(税別)

ITText 知識マネジメント

大澤幸生 編著
A5判/232頁/本体2,800円(税別)

ITText 情報セキュリティ

宮地充子・菊池浩明 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText 分散処理

谷口秀夫 編著
A5判/240頁/本体2,800円(税別)

ITText Linux演習

前野譲二・落合 昭・生野荘一郎・塩澤秀和・高島俊徳 共著
A5判/224頁/本体2,500円(税別)

ITText インターネットプロトコル

阪田史郎 編著
A5判/272頁/本体2,800円(税別)

ITText 組込みシステム

阪田史郎 著 高田広章 編著
A5判/280頁/本体3,000円(税別)

ITText システムLSI設計工学

藤田昌宏 編著
A5判/242頁/本体2,800円(税別)

お申し込みは



オーム社

101-8460 東京都千代田区神田錦町3-1
TEL 03(3233)0641 FAX 03(3293)6224

<http://www.ohmsha.co.jp/>
本体価格(税別)は変更する場合があります。

ご意見をお寄せください！

【2月10日頃までにお出しく下さい】

宛 先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれから送付できます)

<http://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/enq/enq4901.html> Fax(03)3518-8375 E-mail:editj@ipsj.or.jp

(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

※ ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
<http://www.ipsj.or.jp/03somu/privacypolicy/privacypolicy.html>

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種：(a) 企業（サービス業）(b) 企業（製造業）(c) 研究機関 (d) 教育機関（大学・高専など）
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種：(a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官／教員（大学・大学院）(h) 教職員（小・中・高校・高専など）
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢：(a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別：(a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか？：(a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可（氏名のみ掲載）(b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9-
10. 今月号（2008年1月号）の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a …大変参考になった b …よい c …普通、どちらとも言えない d …悪い e …読んでいない]

特集：ロボットメディアによる人間情報処理研究

1. ロボットメディアによる人間情報処理研究 10-1-
2. アンドロイド、ジェミニイドと人間の相違 10-2-
3. ロボットによる人の聴覚処理への構成的アプローチ 10-3-
4. コミュニケーションロボットと人間との距離 10-4-
5. ロボットに対する無意識レベルのイメージ 10-5-
6. ロボットに媒介されたコミュニケーションによる自閉症療育 10-6-
7. 人間と教え合うロボットインタフェース 10-7-
- RoboCup 2007 サッカーシミュレーションリーグ参加報告 10-8-
- StarBED：大規模ネットワーク実証環境 10-9-
- 仮想マシン道しるべ：仮想マシンを支えるハードウェア技術（AMD） 10-10-
- 朝日放送が取り組むIPネットワークを活用したHD番組運用 10-11-
- 機械翻訳最新事情：(上) 統計的機械翻訳入門 10-12-
- 研究会千夜一夜：情報科学の新たな地平線を求めて 10-13-
- 研究会千夜一夜：組込みシステム研究会 10-14-
- 標準化よもやま話：企業における標準化活動について 10-15-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問、今後取り上げて欲しいテーマなどありましたらお書きください。

最近1月号の特集のエディタをおおせつかることが多いです。1月号は年末年始のお休みがあるので、通常の月より締切が厳しく、執筆者の皆様は、毎回厳しくフォローさせていただくので、厳しいエディタとしての評判を確立しつつあると感じています。そんな中でも解説記事には毎回発見があり、忙しい中でも楽しませていただいています。

今回はロボットを使って人間の何たるかに迫るということで、さらに楽しませていただきました。

また、特集の編集作業を支えていただいた後路さんはじめ、事務局の皆様へ感謝します。

(土井美和子／本特集エディタ)

次号(2月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」ソフトウェアテストの最新動向

ソフトウェアテスト総論／テストプロセスとテストプロセス改善／組合せテストの設計／UML2.0 Testing Profile / Eclipse Test & Performance Tools Platform によるテスト／Web アプリケーションのテスト・テストの自動化／並列プログラムのテスト／Test-Driven Development(テスト駆動開発)／実践的デバッグ／テスト技法

報 告

高度 IT 人材育成フォーラム・公開イベント報告(仮)..... 掛下哲郎

解 説

インターネットの速度記録を達成(仮)..... 平木 敬
機械翻訳最新事情：(下) 競争型ワークショップの動向と日本からの貢献(仮)..... 塚田 元 他

委員会から

IFIP - 情報処理国際連合 - 近況報告 中島秀之 他

連 載 仮想マシン道しるべ

コラム 研究会千夜一夜／標準化よもやま話

ITの最新情報、研究発表の場の提供を通じて、あなたのお役に立ちます

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

会員募集中!!

今一番新しい研究分野は何か?

IT時代をリードしたい!

そうだ、情報処理学会に入ろう!



申込／照会先 社団法人 情報処理学会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail:mem@ipsj.or.jp

複写される方へ

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、(社)日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写は其の必要はありません(社外頒布用の複写は許諾が必要です)。

権利委託先：(中法) 学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、本会へご連絡ください。

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

If you wish to photocopy any work of this publication, you have to get permission from the following organization to which licensing of copyright clearance is delegated by the copyright owner.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail: info@jaacc.jp

Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA

Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

掲載広告カタログ・資料請求用紙

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	346,500 円 (税抜 330,000 円)	—	—
表 3	288,750 円 (税抜 275,000 円)	—	—
表 4	404,250 円 (税抜 385,000 円)	—	—
表 2 対向	315,000 円 (税抜 300,000 円)	—	—
表 3 対向	278,250 円 (税抜 265,000 円)	199,500 円 (税抜 190,000 円)	162,750 円 (税抜 155,000 円)
前付 1 頁	262,500 円 (税抜 250,000 円)	173,250 円 (税抜 165,000 円)	141,750 円 (税抜 135,000 円)
前付 1/2 頁	—	—	84,000 円 (税抜 80,000 円)
前付最終	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
目次前	—	—	155,400 円 (税抜 148,000 円)
差込 (A 判 70.5kg 未満 1 枚)	288,750 円 (税抜 275,000 円)		
差込 (A 判 70.5kg ～ 86.5kg 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		
同封 (A 判 1 枚)	367,500 円 (税抜 350,000 円)		

■「情報処理」

発 行 社団法人 情報処理学会
発行部数 25,000 部
体 裁 A4 判
発 行 日 毎当月 15 日
申込締切 前月 10 日
原稿締切 前月 20 日
広告原稿 オフセット用ポジフィルム
原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm
1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm
雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
アドコム・メディア（株）(Tel/Fax/E-mail は下に記載)

*左記料金はポジフィルム納入による料金です。
*版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。
*断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。
*同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア（株）宛にご請求ください。

■「情報処理」 49 巻 1 号 掲載広告（五十音順）

☐ インタフェース…………… 表 2 ☐ 培風館…………… 前付最終上
☐ オーム社…………… 表 2 対向 ☐ 日立製作所…………… 表 4
☐ 秀和特許事務所…………… 目次前

☐ すべての会社を希望

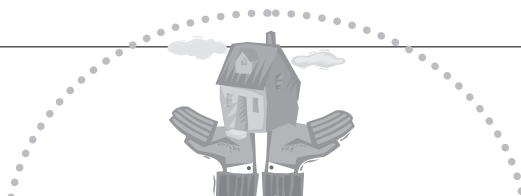
■資料送付先

フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL ()	-	FAX ()	-
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は
広告総代理店 **アドコム・メディア（株）**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp



賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp>) 「会員サービス」のページからも各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 (社) 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ～ 50 口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

MITSUBISHI
Changes for the Better

三菱電機 (株)

●●● 賛助会員 (10 ～ 19 口)



株式会社NTTデータ
(株) NTT データ

Google

グーグル (株)



NTTコムウェア
NTT コムウェア (株)



(株) NTT ドコモ



日本電信電話 (株)

Microsoft

マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3 ～ 9 口)

OKI

沖電気工業 (株)



(株) インプレス IT

Panasonic
ideas for life

松下電器産業 (株)

●●● 賛助会員 (2 口)



(株) KDDI 研究所



NTT アドバンステクノロジー
(株)

Canon

キヤノン (株)



(株) 言語工学研究所



三協印刷 (株)

SANBI

三美印刷 (株)



鉄道情報システム (株)



東北電力 (株)



日本インターシステムズ(株)



Victor・JVC

日本ビクター (株)



日本放送協会放送技術研究所

インテル (株) / キーウェアソリューションズ (株) / (株) 数理計画 / (株) デンソー / (株) メディアフラッツ

【A～Z】

(株) CIJ
CRIMSON INTERACTIVE
PVT. LTD.
(株) CSK システムズ
(株) FFC
(株) HBA
HOYA(株)
IT エンジニアリング(株)
JRC エンジニアリング(株)
(株) KDDI 研究所
MHI エアロスペースシステムズ(株)
NEC システムテクノロジー (株)
(株) NEC 情報システムズ
NEC ソフト(株)
NEC ソフトウェア東北(株)
NEC フィールディング(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
NTT コムウェア(株)
NTT ソフトウェア(株)
(株) NTT データ
(株) NTT データ関西
(株) NTT データ九州
(株) NTT データ中国
(株) NTT データ東海
(株) NTT データ東北
(株) NTT ドコモ
NTT 横須賀研究開発センタ
(株) PFU
(株) SRA
TIS (株)
(株) UFJ 日立システムズ

【あ行】

アートシステム(株)
アイアンドエルソフトウェア(株)
(株) アイヴィス
(株) アイ・エス・ビー
アイシン精機(株)
(株) アイズファクトリー
(株) アイネス
アイビーシー (株)
(株) アドバンス・メディア
(株) アライドテレシス開発セン
ター
(株) アルゴ 21
(株) アルファシステムズ
池上通信機(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
岩崎通信機(株)
インダストリアルソフト(有)
(株) インタフェース
(株) インテック
インテル(株)
インフォサイエンス(株)
(株) インフォシティ
(株) インプレス IT
(株) ヴァル研究所
(株) エクサ
(株) エスケーエレクトロニクス

(株) エデュケーショナルネットワーク
(株) エヌジェーケー
エヌ・ディー・アール(株)
エヌ・ティ・ティ・データ・クリエイショ
ン(株)
オークマ(株)
(株) 大塚商会
(株) オーム社
沖ソフトウェア(株)
沖通信システム(株)
沖電気工業(株)
(株) 小野仁
オムロン(株) 京阪奈情報センタ
オムロンソフトウェア(株)
オリンパスソフトウェアテクノロジー
(株)

【か行】

独立行政法人科学技術振興機構
(財) 画像情報教育振興協会
(学) 片柳学園日本工学院専門学校
(学) 片柳学園日本工学院八王子
専門学校
関西電力(株)
関電システムソリューションズ(株)
キューウェアソリューションズ(株)
(財) 機械振興協会
キャノン(株)
キャノン(株) 研究推進課
キャノンソフトウェア(株)
(財) 九州システム情報技術研究所
九州電力(株)
共立出版(株)
グーグル(株)
(財) 釧路根室圏産業技術振興セ
ンター
(株) 言語工学研究所
原電情報システム(株)
(株) コア 中四国カンパニー
(株) 構造計画研究所
(株) 高知電子計算センター
(株) 国際電気通信基礎技術研究所
国土館大学情報科学センター
独立行政法人国立印刷局研究所
国立国会図書館
コニカミノルタテクノロジーセン
ター (株)
(株) コミュニチュア

【さ行】

(株) サイエンスハウス
(株) サイエンティア
サクサ(株)
サクシード(株)
三協印刷(株)
(株) 産業開発機構
三美印刷(株)
サン・マイクロシステムズ(株)
三洋電機(株)
三洋電機(株) デジタルシステム研

究所
(株) シーエーシー
(株) ジーダット
(株) ジェイアールシステム・エンジ
ニアリング
(株) ジェイアール東日本情報シス
テム
システム・オートメーション(株)
システム開発(株)
(株) システムラボ
シャープ(株) 技術本部
(株) ジャステック
(株) ジャストシステム
(株) ジャパンテクノカルソフトウェア
(財) 情報科学国際交流財団
情報科学専門学校新横浜校
(社) 情報サービス産業協会
(財) 情報処理相互運用技術協会
独立行政法人新エネルギー・産
業技術総合開発機構
(株) 新社会システム総合研究所
新日鉄ソリューションズ(株)
(株) 数理計画
住商情報システム(株)
住友電気工業(株)
セコム(株)
(株) 先端力学シミュレーション研
究所
セントラル・コンピュータ・サービ
ス(株)
(株) 全農ビジネスサポート
(株) 創夢
ソニーグローバルソリューショ
ンズ(株)
(株) ソフトウェアコントロール
(財) ソフトウェア情報センターソフ
トウェア特許情報センター
ソフトバンククリエイティブ(株)
(財) ソフトピアジャパン
ソラン(株)

【た行】

(株) 第一コンピュータリソース
(株) ダイナックス高松
大和ハウス工業(株)
拓殖大学
中国電力(株)
(株) 中電シーティーアイ
中部電力(株)
中部日本電気ソフトウェア(株)
通研電気工業(株)
(株) ディーアンドエムホールディン
グス
ティーディーシーソフトウェアエン
지니어リング(株)
テービーテック(株)
デジタルプロセス(株)
鉄道情報システム(株)
(財) 鉄道総合技術研究所
(株) テブコシステムズ
(株) 電産

(社) 電子情報技術産業協会
(株) デンソー
(株) デンソー IC 技術 1 部
(株) デンソーアイティラボラトリ
(株) デンソークリエイト
(財) 電力中央研究所
東海ソフト(株)
東海旅客鉄道(株)
東京電力(株)
東光(株)
(株) 東芝
東芝システムテクノロジー (株)
東芝情報システム(株)
東芝ソリューション(株)
東芝テック(株)
東芝電力系統システムテクノロジー
(株)
東芝プロセスソフトウェア(株)
東芝マイクロエレクトロニクス(株)
東芝メディカルシステムズ(株)
(学) 東都学園東都コンピュータ専
門学校
東邦ガス情報システム(株)
東北電力(株)
東北電力(株) 研究開発センター
(株) 東和システム
ドコモ・テクノロジー(株)
特許庁
凸版印刷(株)
トッパン・フォームズ(株)
(株) トヨコムシステムズ
(株) トヨタコミュニケーションシス
テム
トヨタ自動車(株)
(株) 豊田中央研究所

【な行】

名古屋学院大学
(株) ニコン
(株) ニコンシステム
日興システムソリューションズ(株)
ニッセイ情報テクノロジー (株)
日鉄日立システムエンジニアリング
(株)
日本アルゴリズム(株)
日本コムシス(株)
日本事務器(株)
(株) 日本情報システムサービス
日本電気(株)
(株) 日本電気特許技術情報セン
ター
日本アイ・ビー・エム(株)
日本インターシステムズ(株)
(社) 日本化学会
(株) 日本科学技術研修所
日本銀行
日本原子力研究開発機構
日本航空電子工業(株)
日本信号(株)
日本エレクトロニクス(株)
日本電子計算(株)

日本電信電話(株)
 (株)日本トラフィックコンピュー
 ターセンター
 日本ビクター (株)
 日本ヒューレット・パッカード(株)
 ヒューレット・パッカード研究所
 (財)日本品質保証機構
 日本放送協会 放送技術研究所
 日本無線(株)
 日本ユニシス(株)
 (株)日本旅行
 (株)ニューメディア総研
 (株)野村総合研究所

【は行】

パイオニア(株)技術開発本部
 パイオニア(株)技術開発本部シ
 ステム研究センター
 萩原電気(株)
 (株)博報堂DYホールディングス
 パナソニック コミュニケーションズ
 (株)
 パナソニック モバイルコミュニ
 ケーションズ(株)
 パナソニック MSE (株)
 パナソニック四国エレクトロニクス
 (株)
 (株)ピーコン インフォメーション
 テクノロジー
 (株)ピクセラ
 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株)
 (株)日立アドバンストデジタル
 (株)日立エイチ・ピー・エム
 (株)日立国際電気
 (株)日立システムアンドサービス
 (株)日立システムアンドサービス
 中部支社

(株)日立情報システムズ
 (株)日立情報制御ソリューション
 ズ
 (株)日立製作所情報・通信グループ
 (株)日立製作所 東北支社
 (株)日立製作所 システム開発研
 究所
 (株)日立製作所 中央研究所
 (株)日立製作所 中国支社
 日立ソフトウェアエンジニアリング(株)
 (株)日立中国ソリューションズ
 (株)日立テクニカルコミュニケー
 ションズ
 (株)日立東日本ソリューションズ
 (株)ファースト
 (株)フォーカスシステムズ
 (株)フジキカイ 名古屋工場
 富士通(株)
 富士通アクセス(株)
 (株)富士通エフサス
 富士通関西中部ネットテック(株)
 (株)富士通長野システムエンジニ
 アリング
 (株)富士通九州システムエンジニ
 アリング
 (株)富士通南九州システムエンジ
 ニアリング
 (株)富士通四国システムズ
 (株)富士通中国システムズ
 (株)富士通中部システムズ
 (株)富士通東北システムズ
 (株)富士通北陸システムズ
 (株)富士通ソーシアルサイエンス
 ラボラトリ
 富士通テン(株)
 フジテック(株)
 船井電機(株)
 フューチャーアーキテクト(株)

ブラザー工業(株)
 (株)ブリヂストン
 (株)ブリッジ
 古野電気(株)
 (株)プロアシスト
 プロソフトトレーニングジャパン
 (株)
 北陸電力(株)
 北陸日本電気ソフトウェア(株)
 (株)北海道ジェイ・アール・シス
 テム開発
 (株)堀場製作所

【ま行】

マイクロソフト(株)
 松下電器産業(株) コーポレート
 R&D 戦略室(大阪)
 松下電器産業(株) コーポレート
 R&D 戦略室(東京)
 松下電器産業(株) パナソニック
 AVC ネットワークス社
 (株)松下電器情報システム名古屋
 研究所
 松下電工(株)
 マツダ(株)
 三井情報(株)
 三菱スペース・ソフトウェア(株)
 三菱電機(株)
 三菱電機インフォメーションシス
 テムズ(株)
 三菱電機コントロールソフトウェア
 (株)
 三菱電機メカトロニクスソフトウエ
 ア(株)
 三菱プレシジョン(株)
 武蔵野美術大学
 (株)メイテツコム

(株)メディアフラッツ
 森長電子(株)

【や行】

ヤフー (株)
 ヤマトシステム開発(株)
 ヤマハ(株)
 横河電機(株)

【ら行】

リードエグジビションジャパン(株)
 (株)リコー
 (株)リコー ソフトウェア研究所
 (株)リンクレア
 (株)ロックウェーブ

協力協定締結学会との正会員会費割引について

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
 本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/06mem/kaiin/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・割引率（当会の正会員対象）

ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
CSI	(Computer Society of India)	20%
ASTI	(Association Francaise des Sciences et Technologies de l' Information)	10%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (<http://www.ipsj.or.jp/03somu/kanrenlink/kanrendantai/kanren/kaigaikanren.html>) をご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会会費割引率

正会員費 10%（協力協定学会の正会員対象）

【申請方法】会費割引を希望する正会員の方（これから入会する方を除く）は、その旨を協力協定締結各学会正会員の会員証コピーを添付（Fax 可）のうえ、下記照会先に申請してください。各学会への照会後に適用となります。割引適用は1学会分といたします。

※これから入会を希望する方は、入会金免除を受ける方法 (<http://www.ipsj.or.jp/06mem/nyukai/nyukaikinmenjo.html>) をご参照ください。

■照会先：会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375